

社会資本総合整備計画  
「中心市街地の玄関口にふさわしい魅力あるまちづくり」  
【平成26～29年度】

事後評価シート

- ・中央町19・20番街区市街地再開発事業
- ・鹿児島駅周辺地区都市再生整備計画事業
- ・千日町1・4番街区市街地再開発事業

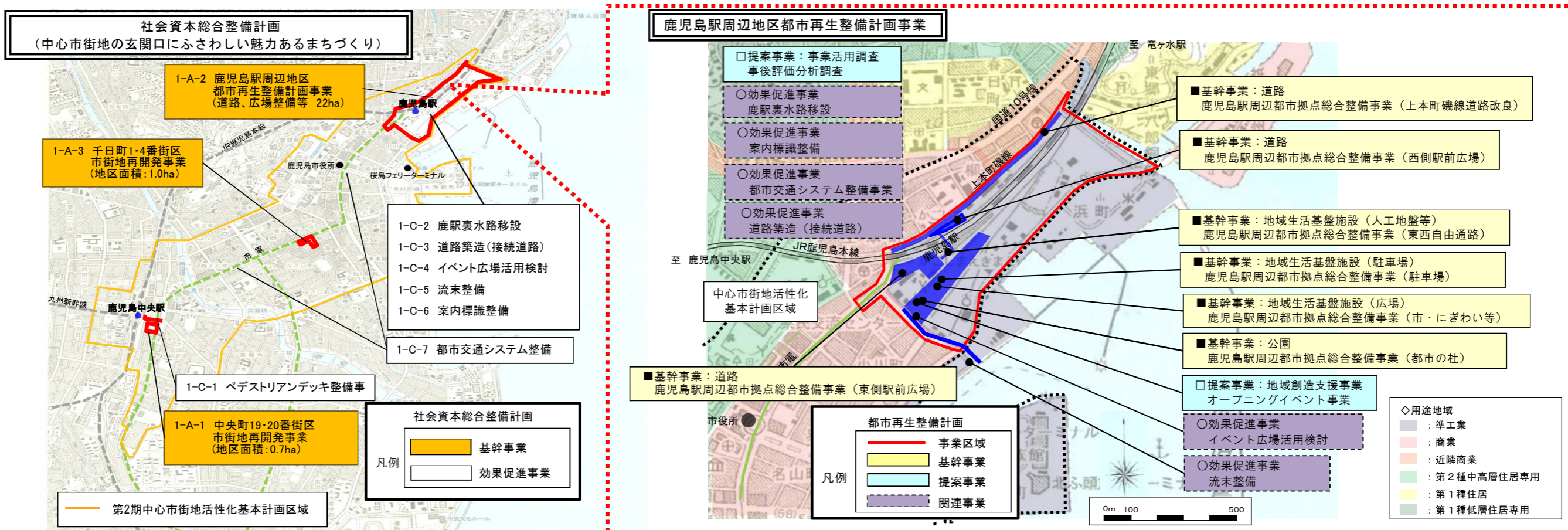
平成29年12月

鹿児島県鹿児島市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	鹿児島県	市町村名	鹿児島市	計画名	中心市街地の玄関口にふさわしい魅力あるまちづくり	
交付期間	平成26年度～平成29年度	事後評価実施時期	平成29年度	交付対象事業費	4,836百万円(A基幹事業:4,629百万円、C効果促進事業:207百万円)	
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	A 基幹事業	市街地再開発事業	中央町19・20番街区市街地再開発事業		
		A 基幹事業	都市再生整備計画事業	【道路】鹿児島駅周辺都市拠点総合整備事業(上本町磯線道路改良)、鹿児島駅周辺都市拠点総合整備事業(西側駅前広場) 【公園】鹿児島駅周辺都市拠点総合整備事業(都市の杜) 【地域生活基盤施設】鹿児島駅周辺都市拠点総合整備事業(市・にぎわい等)、鹿児島駅周辺都市拠点総合整備事業(駐車場)、鹿児島駅周辺都市拠点総合整備事業(東西自由通路)		
		B 関連社会資本整備事業	なし			
		C 効果促進事業	イベント広場活用検討			
	当初計画から削除した事業	A 基幹事業	なし			
		B 関連社会資本整備事業	なし			
		C 効果促進事業	市街地再開発事業	ペDESTリアンデッキ整備	中央町19・20番街区周辺市街地総合再生施設整備を活用するため、事業を削除	指標への影響なし
			都市再生整備計画事業	鹿児島裏水路移設	上本町磯線道路改良の詳細設計の結果、鹿児島裏水路の流域については、道路排水構造物の整備により、対応可能となったため、事業を削除	指標への影響なし
				道路築造(接続道路)	東側駅前広場の事業追加により、接続道路が東側駅前広場に包含され、東側駅前広場から「かんまちあ」(注1)へのアクセスが確保されることから、事業を削除	指標への影響なし
		新たに追加した事業	A 基幹事業	都市再生整備計画事業	【道路】鹿児島駅周辺都市拠点総合整備事業(東側駅前広場)	関係機関との協議が整い、更なる交通結節機能の強化を図るため事業を追加
都市再生整備計画事業				【地域創造支援事業】オープニングイベント事業	「かんまちあ」の整備に伴い、オープニングイベントを開催し施設の機能を幅広くPRするため事業を追加	指標3を上方修正
都市再生整備計画事業	【事業活用調査】事後評価分析調査			鹿児島駅周辺地区都市再生整備計画事業の計画期間終了に伴い、事後評価分析調査を行うため事業を追加	指標への影響なし	
B 関連社会資本整備事業	なし					
C 効果促進事業	都市再生整備計画事業	流末整備	「かんまちあ」の詳細設計の結果、雨水処理の施設が必要となったため事業を追加	指標への影響なし		
		案内標識整備	「かんまちあ」へのアクセス性の改善を図るため事業を追加	指標3を上方修正		
		都市交通システム整備事業	「かんまちあ」への公共交通の乗継環境を改善し、利用者のアクセスを向上させるため事業を追加	指標3を上方修正		
交付期間の変更	当初	平成26年度～平成30年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響	【市街地再開発事業】指標への影響なし		
	変更	平成26年度～平成29年度		【都市再生整備計画事業】指標4を下方修正		

(注1)「かんまちあ」とは、【公園】鹿児島駅周辺都市拠点総合整備事業(都市の杜)、【地域生活基盤施設】鹿児島駅周辺都市拠点総合整備事業(市・にぎわい等)、鹿児島駅周辺都市拠点総合整備事業(駐車場)を総称した愛称



様式2-1 評価結果のまとめ

	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期
	指標1	指標2		基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
2) 社会資本総合整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標1	中心市街地の土日の歩行者通行量	人/日	165,664	H24	171,000	H29	—	158,363	×	あり なし ●	2つの市街地再開発事業の着実な進捗により、中心市街地の活性化への期待が高まっているが、中心市街地外の大型商業施設による影響などから、目標達成は難しい状況となっている。	平成30年4月頃
	指標2	いづろ・天文館地区の空き店舗率	%	7.3	H26	7.3	H29	—	8.3	×	あり なし ●	2つの市街地再開発事業の着実な進捗により、中心市街地の活性化への期待が高まっているが、中心市街地外の大型商業施設による影響に加え、店舗物件の条件が借り手のニーズと合わないことなどから、目標達成は難しい状況となっている。	平成30年4月頃
	指標3	鹿児島駅周辺地区で整備したイベント広場でのイベント開催数	件/年	3	H24	39	H29	—	42	○	あり なし -	多様な活用ができる施設として整備した「かんまちあ」により目標達成につながった。また、住民との協働による取り組みや情報発信による効果も発現した。	平成30年4月頃
	指標4	JR鹿児島駅の乗降客数	千人/年	1,227	H23	1,225	H29	—	1,169	△	あり なし ●	「かんまちあ」整備の効果により、駅利用者数の減少のペースが緩やかになっている。	平成30年8月頃
3) その他の数値指標 (当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期
	その他の数値指標	中心市街地の入込観光客数	千人/年	7,860	H26			—	7,981				
												年間を通じて行われる多彩なイベント開催などにより指標は増加傾向となっており、「かんまちあ」で開催されるイベントも効果発現の要因となっている。	平成30年8月頃

モニタリング

計画途中に、任意に指標の達成状況を把握し、その後の事業の進め方を検証

評価値

- 評価基準日(交付終了年度の最終日H30.3.31)における値
- 確定できない場合、見込み値を推計

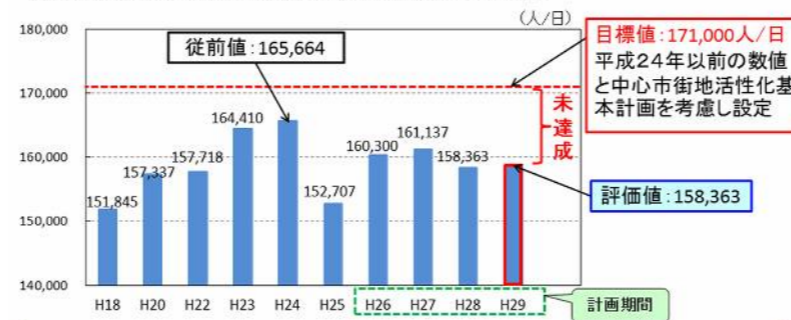
目標達成度

- : 評価値が目標値を上回った場合
- △: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合
- ×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

1年以内の達成見込み

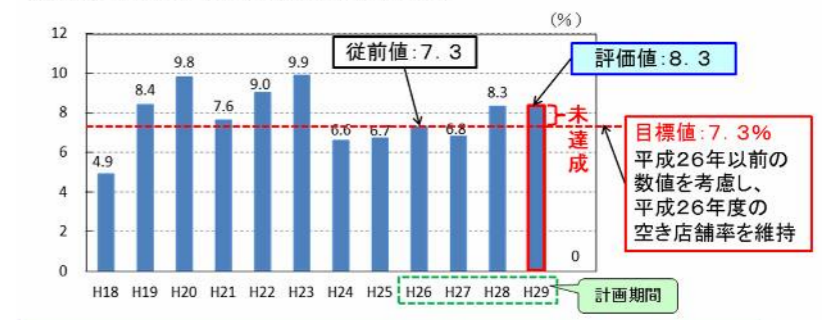
- 評価値が目標値に達していない場合、1年以内の達成見込みを検証

○指標1: 中心市街地(30地点)の土日の歩行者通行量



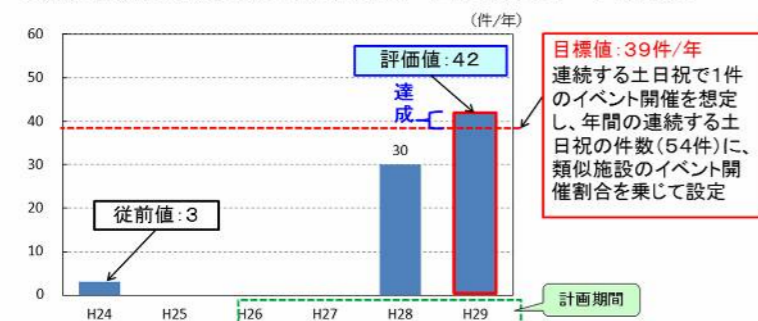
(評価値の根拠)  
○近年の歩行者通行量の傾向や、中心市街地外の大型商業施設による影響などを考慮すると、短期間で大幅な改善は見込めないことから、評価値は28年と同じ158,363人と推計

○指標2: いづろ・天文館地区の空き店舗率



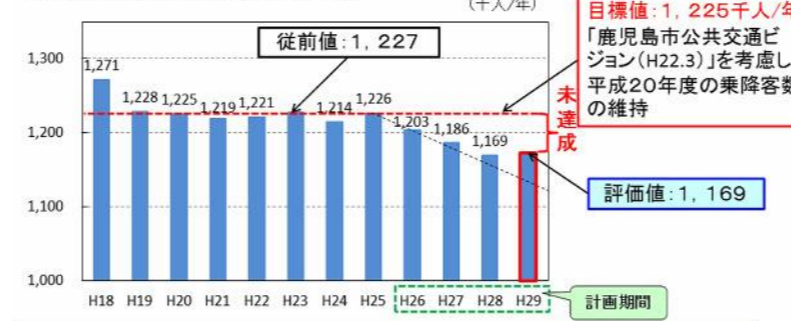
(評価値の根拠)  
○近年の空き店舗率の傾向や、中心市街地外の大型商業施設による影響などを考慮すると、短期間で大幅な改善は見込めないことから、評価値は、28年と同じ8.3%と推計

○指標3: 鹿児島駅周辺地区で整備したイベント広場でのイベント開催数



(評価値の根拠)  
○29年4月~7月のイベント開催実績42件を評価値として設定  
○8月以降も46件の予約が入っており、29年度のイベント開催想定は、88件となり、目標値を大きく上回る。

○指標4: JR鹿児島駅の乗降客数



(評価値の根拠)  
○近年の鹿児島駅乗降客数は減少傾向にあるものの、28年10月に整備した「かんまちあ」による一定の効果も考慮し、評価値は28年と同じ1,169千人と推計

○その他指標: 中心市街地の入込観光客数



(評価値の根拠)  
○近年の中心市街地の入込観光客数の傾向を考慮すると、短期間で大幅な改善は見込めないことから、評価値は28年と同じ7,981千人と推計

4) 定性的な効果発現状況	「かんまちあ」の活用推進に向けたワークショップ参加者を中心とした市民主体のイベントが企画されるなど、周辺地域のにぎわい・交流を創出するまちづくりへの意識が高まっている。		
5) 実施過程の評価	モニタリング	なし	計画に記載し、実施できた 計画に記載はなかったが、実施した 計画に記載したが、実施できなかった
	住民参加プロセス	①鹿児島駅周辺施設活用推進ワークショップ「かんまちあ」オープニングイベント ②「かんまちあ」活用推進ワークショップ ③千日町再開発ビル広場に関するアイデア募集とワーキンググループ ④いづろ・天文館地区回遊空間づくり推進ワーキンググループ	計画に記載し、実施できた(①) 計画に記載はなかったが、実施した(②、③、④) 計画に記載したが、実施できなかった
	持続的なまちづくり体制の構築	①鹿児島駅周辺まちづくり団体との連携 ②「鹿児島駅周辺まちづくりだより」の発行 ③「鹿児島中央駅周辺まちづくり協議会」の設立	計画に記載し、実施できた 計画に記載はなかったが、実施した(①、②、③) 計画に記載したが、実施できなかった
	今後の対応方針等	— ・市民・指定管理者・市で構成する「かんまちあ」活用推進ワークショップの開催等を今後も支援していく。(①、②) ・周辺商店街等と協力し、千日町再開発ビル広場の計画の取りまとめを支援していく。(③) ・周辺商店街等と協力し、いづろ・天文館地区の回遊性向上などを図る施策を支援していく。(④) ・鹿児島駅周辺地区におけるまちづくり活動の運営を支援していく。(①、②) ・「鹿児島中央駅周辺まちづくり協議会」の経済的自立を目指し、収益事業を支援していく。(③)	

## 様式2-2 地区の概要

### 中心市街地の玄関口にふさわしい魅力あるまちづくり 社会資本総合整備計画の成果概要

計画の目標	目標を定量化する指標	従前値		目標値		評価値		
		従前値	年度	目標値	年度	評価値	年度	
○ 九州新幹線的全線開業効果を持続・拡大し、本市がさらに発展していくためには、陸の玄関口である鹿児島中央駅周辺や、北の玄関口である鹿児島駅周辺等において、中心市街地の玄関口にふさわしい魅力あるまちづくりを推進し、駅周辺等の活性化を図るとともに、本市のイメージアップを図り、中心市街地の更なる活性化につなげる必要がある。	中心市街地の土日の歩行者通行量	単位：人/日	165,664	H24	171,000	H29	158,363	H29
○ そこで、中央町19・20番街区では、本市の陸の玄関の顔づくりを進める上で大変重要な位置にあるとともに、鹿児島中央駅周辺の代表的な商業集積地の入口でもあることから、良好な都市景観の創出、魅力ある商業施設、快適な回遊拠点又は良好な交通環境などを一体的に整備する組合施行による市街地再開発事業を推進する。	いづろ・天文館地区の空き店舗率	単位：%	7.3	H26	7.3	H29	8.3	H29
○ また、中心市街地の北に位置する鹿児島駅周辺地区では、交通のふくそうした状況の解消や大規模な低未利用地の土地利用の転換が進んでいないことから、地区の魅力を経営的に高めるために、特色を活かした新たな都市拠点の形成や鹿児島市の北の玄関口として交通結節機能の強化を推進する。	イベント開催数	単位：件/年	3	H24	39	H29	42	H29
○ さらに、中心市街地の中心に位置する千日町1・4番街区では、南九州随一の繁華街である天文館にふさわしい観光と商業の新たな拠点を整備する組合施行による市街地再開発事業を推進し、駅周辺との回遊性を高め、中心市街地全体の活性化を図る。	JR鹿児島駅の乗降客数	単位：千人/年	1,227	H23	1,225	H29	1,169	H29



◇市街地再開発事業  
中央町19・20番街区市街地再開発事業



◇市街地再開発事業  
千日町1・4番街区市街地再開発事業



◇都市再生整備計画事業  
【地域生活基盤施設】鹿児島駅周辺都市拠点総合整備事業  
(市・にぎわい等)



◇都市再生整備計画事業  
【公園】鹿児島駅周辺都市拠点総合整備事業(都市の杜)



◇都市再生整備計画事業  
【地域生活基盤施設】  
鹿児島駅周辺都市拠点総合整備事業(駐車場)



◇都市再生整備計画事業  
【道路】鹿児島駅周辺都市拠点総合整備事業  
(上本町磯線道路改良)



◇都市再生整備計画事業  
【地域創造支援事業】オープニングイベント事業



◇都市再生整備計画事業  
【効果促進事業】イベント広場活用検討



◇都市再生整備計画事業  
【効果促進事業】案内標識整備



◇都市再生整備計画事業  
【効果促進事業】都市交通システム整備事業

まちの課題の変化	【鹿児島中央駅周辺地区】 ・アミュプラザ鹿児島プレミアム館や鹿児島中央ターミナルビルなどが建設され、新たなにぎわいが創出されているが、東口駅前広場の南側に面する中央町19・20番街区は建物の老朽化などにより、活力が低下しつつあることから、一体的な都市機能の更新が求められている。 ・ソフト面では、東口地区と西口地区が連携し、本市の陸の玄関口としてのイメージアップにつながる取り組みが求められている。
	【いづろ・天文館地区】 ・今後さらなるにぎわいの創出を図るためには、新たなにぎわい拠点整備などにより、まちの魅力を高め、鹿児島中央駅周辺地区との回遊性の向上を図る必要がある。
	【鹿児島駅周辺地区】 ・「かんまちあ」の整備により、大規模低未利用地の改善が進みイベント広場や緑豊かな都市空間が生まれ、地区の魅力アップにつながっている。また、「かんまちあ」では、様々なイベントが行われ、鹿児島駅周辺地区の新たな交流の場として賑わいが高まっている。 ・駅前のバス停が点在するなど交通が輻輳している状況が改善されておらず、駅前広場利用者の利便性や安全性を確保する必要がある。 ・鉄道による市街地分断により、住宅地が広がる西側から鹿児島駅へのアクセス性が乏しい状況であるため、駅周辺の回遊性の向上を図る必要がある。
今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)	【鹿児島中央駅周辺地区】 ・鹿児島中央駅東口駅前広場に面する中央町19・20番街区において、鹿児島の玄関にふさわしい都市景観の形成や、にぎわいとゆとりある都市空間の創出などを図るため、両街区を一体的に整備する市街地再開発事業を推進する。 ・既存の中央駅振興会、ウエストサイドストーリー活性化実行委員会(西口地区)、鹿児島中央駅東口地区連絡協議会の三組織が連携した鹿児島中央駅周辺まちづくり推進協議会(H29.5 設立)を中心として、美化活動やまち案内活動などに継続的に取り組むとともに、経済的自立を目指し、収益事業の支援を行う。
	【いづろ・天文館地区】 ・天文館通電停前に位置する千日町1・4番街区において、にぎわいとゆとりある都市空間の創出や観光・交流機能の強化などを図るため、両街区を一体的に整備する市街地再開発事業を推進する。 ・「いづろ・天文館地区回遊空間づくり推進事業」において、さらなるにぎわいの創出、回遊性の向上を図るための施策について、周辺商店街と協議しながら、検討を行う。
	【鹿児島駅周辺地区】 ・「かんまちあ」活用推進ワークショップを継続し、「かんまちあ」を活用した更なるにぎわい・交流を図る住民主体の活動の支援を行う。 ・鹿児島市の北の玄関口として交通結節機能を強化し、駅前広場利用者の利便性や安全性の向上を図るため、東西自由通路や東西駅前広場の整備等を実施する。 ・回遊性のある歩行者空間のネットワークを形成し、駅周辺の更なるにぎわい・交流の促進を図るため、東西自由通路の整備や上本町磯線の歩道整備等を実施する。